



広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.
2011

例会日・木曜日 12:30～13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 田中 健志
幹 事 金本 善行

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ Building Communities Bridging Continents

「地域を育み、大陸をつなぐ」

本年度会長テーマ

「ロータリーを楽しもう」

「ロータリー理解推進月間」

2011年 1 月 6 日 第1987回例会

◆ 会長時間 ◆

田中会長



皆様新年明けましておめでとうございます。1週間前後の年末年始休暇をご家族と一緒に過ごしになられたと思います。私自身も久しぶりに家族とおせち料理を食べ、

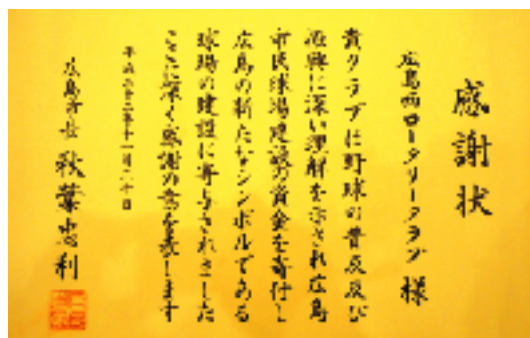
つかの間の「のんびり感」と「安心感」を味わいました。やはり経済人としては今年の景気回復が気になり、色々な報道を見ました。何れの報道を見てもあまり期待できるような評論や予想はありませんでした。私が属している業界はあと1年半位良くないようです。ロータリー活動するにはロータリアンそれぞれの会社の繁栄と安定が不可欠です。本年1年お互いに頑張りましょう。

さて、昨年12月22日は親睦活動委員会の設営による夫人同伴懇親会がありました。ANAホテルの美味しい料理、マリンバアンサンブルの子供たちの素晴らしい演奏、そしてくじ引き抽選会でのお土産等で本当に楽しい企画でした。親睦活動委員会の皆様ありがとうございました。

最後にご報告です。2004-05年度米山奨学生の李華さんから新年挨拶のメールが届きました。広島での留学中当クラブの方々からの支援に対する感謝が述べられています。現在は大連で日本企業に入社し、社員教育を担当しており元気になっています。

ることです。会報に掲載しますのでご一読下さい。

☒ 広島市民球場(マツダスタジアム)寄付に対する感謝状披露



☒ 新会員 中山 敬一 氏に会員証及び四つのテスト、職業宣言贈呈



● 会務報告

金本幹事

※BOXに2009-10年度地区活動報告書を配布しております。

※ロータリーレートが1月より1ドル84円（現行82円）に変更になりました。

※例会臨時変更

1月19日(水) 広島陵北RC「広島北RC・広島安佐RCとの合同夜間例会」

※例会終了後、4階「松の間」において1月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

● 委員会報告

出席報告 木村委員長

本 日 (1月6日・木曜日)

会員数 83名 出席者 71名

欠席者 12名 ご来客 1名

ご来賓 0名 ゲスト 1名

計 73名

前々回(12月16日・木曜日)

出席率 100%



※ S A A 委員会 木本委員長

本日より席替えです。

※ロータリー財団奨学生、湯本隼士さん及び元米山奨学生の李華さんからのメールが届きました。

＜湯本 隼士さん＞

ご無沙汰しております。ロータリー国際親善奨学生の湯本です。渡米して早半年、暫く連絡差し上げる事が出来ず大変恐縮です。私とは言うところ、想像以上の勉強量に圧倒されながらも何とか秋学期を終了する事ができ、冬休みに入った所です。

学期中は何度かお世話になっているロータリークラブの例会に参加させていただくのが精一杯なほど、学業に追われておりましたが、冬休みは比較的自由な時間が確保できる為、ロータリークラブのイベントにより積極的に参加していきたいと考えております。

実は3月に広島平和文化センターの原爆資料貸与（写真、DVD）事業に申請し、私が滞在しているDurhamで規模はまだ正確に決まっていますが展示会をする予定です。実際には現在ホストロータリアンの方に相談中で、場所と日程が決まり次第申請書を文化センターのほう

うに提出しようと思っています。

今世界が非核活動の流れにある中で、少しでも広島から派遣されている奨学生として、地域にメッセージを伝える機会を設けられればと思います。

幸いな事に私が通っているDuke大学には国際平和奨学生で平和学を学ばれている日本人もおり、活動に参加頂ける予定です。

最近はその為にカメラも購入したので、また状況をみて、写真と併せて近況を報告させていただきます。

忘年会シーズンで大変お忙しい事かと思いますが、何卒ご自愛ください。 湯本 隼士

＜李 華さん＞

ご無沙汰しております。2004年-2005年お世話になっておりました、広島経済大学の大学院生 李華です。

日本に留学しているうちに、本当にクラブの中田社長をはじめ、多くの方々から暖かいご支援をいただき、今でも忘れられません。

心から感謝しております。

現在私は中国の大連に戻り、日本企業に入社し、社員教育を担当しております。

元気にしています。

今年残りわずかになりました。来年もよいお年でありますように祈っております。

そして皆様のご健勝とご多幸を祈っております。

以上です。

李華(Li Hua)

● 同好会報告

紫雀会 岡田世話人

紫雀会の12月月例会が12月16日シサール麻雀室で開催されました。

優勝は頭脳派中村哲朗直前会長が見事逃げ切り、小橋副幹事の連勝を3でストップしました。2位は相変わらず絶好調の副幹事小橋さんが強烈な追い上げを見せましたが一步届きませんでした。とは言え本年度6戦して優勝4回、準優勝2回とまだまだ勢いはとどまる所を知らないといったところです。3位は4回中2回トップと着実に好成績をあげた若手のホープ鈴木さんが入りました。

1月の月例会は1月20日の第3木曜日、庚午クラブでの開催を予定しております。

本年も数多くの皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

■新会員紹介

なかやま けいいち
○中山 敬一 会員
推薦者 井原俊彦会員
推薦同意者 瀬尾 誠会員

生年月日 昭和21年5月26日

勤務先 内外装飾株

役職名 代表取締役

学歴 広島大学 経済学部

新入会員として

この度、広島西ロータリークラブに新入会員としてご認定頂きありがとうございます。入会日は23年1月6日となりましたが、先立って12月22日の夜間例会に参加させていただきました。

ご推挙いただきました瀬尾社長様と井原先生には多大な骨折りを頂きありがたく感謝しております。

夜間例会の名刺交換の場において、先輩諸兄の皆様より暖かい声をかけていただきました。そして皆様から仲間として迎えて頂いていると実感うれしく思いました。今後、わたしは会員皆様の奉仕精神を理解して名に恥じないロータリアンと成長して行きたいと願っています。もともと私の入会の動機は社会的な教養を身につける事とやさしい年寄りとして生きていきたいと願っての事でしたが、広島西ロータリークラブに参加させて頂くことでもっと楽しく、大きく成長していける場所を頂いた様に思います。

私は広島の南観音で生まれ南観音で育ち、現在も南観音に住んでいます。両親はすでに他界しましたが5人兄弟の内4人が広島に住んでおります。

私の家族は妻と娘一人、息子一人ですがすでに結婚し5人の孫に恵まれております。

私の兄弟と子供たちがすぐ近所に住んでいる事で家族の行き来も多く、地元の知人もたくさんいる事で広島の南観音はふるさとと思っています。

内外装飾は、私が29歳のとき浜本工芸を退社して創業いたしました。

当時は内装業を専門としていましたが競争の厳しさから、リフォーム業に転身いたしました。長い年月の社歴ですが、その間のオイルショック、バブル崩壊、リーマンショック、円高といろいろと時代の転機を迎えてきましたが、何とか家族や友人たちの力で乗り切ってきました。今思えば当時の仕事仲間、助け合った仲間たちは、現在ほとんど顔を合わすことがなくなりました。そうした

意味では寂しい思いをしています。

今回の西ロータリークラブに参加することで、たくさんの友人が出来ることを願っています。

一日でも早くメンバーとして胸を張れるようがんばりたいと思います。

何卒皆様のご支援ご指導のほどよろしくお願い致します。



●スマイルボックス SAA 木本委員長

皆さん、新年明けましてお目出とうございます。昨年の半期はスマイルボックスにご協力有難うございました。後半の半期もよろしくお願いいたします。

☺教蓮幸生君、香川浩史君、梶川博君、中岡弘夫君、渋谷勝治君、瀬尾誠君、田戸孝雄君、宇田均君

この8人の方々は、わがクラブの年男です。皆さん、祝福の拍手をよろしくお願いいたします。

☺森脇宗彦君、藤田明信君、篁宣之君

皆さん、年の暮れから初詣にかけてご多忙だったと拝察します。ご苦労さんでした。今年一年が平安でありますように、よろしくお願いいたします。

☺川西裕二君 (1月1日 中国新聞)

元旦の紙面のLEADERS倶楽部特集2011「新春インタビュー」に登場され、東白島の旧中国郵政局宿舍跡地で今夏着工される大規模マンションについて述べられるとともに、広島の住宅業界をリードする企業としてのポリシーを熱く語っておられました。ますますのご発展をお祈りします。

☺刀禰明君、諏訪昭登君

母校の早稲田大学が新春の第87回箱根駅伝に見事総合優勝されました。お目出とうございます。

☺紫雀会関係

忘年大会で見事優勝の中村哲朗君はトリプルで、準優勝の小橋敏幸君はダブルで、3位の鈴木義尚君はシングルでお願いします。

☺ 年末夜間例会並びに夫人同伴懇親会関係

高額賞品を獲得された井原俊彦君、新原靖君、齊藤昭一君、吉田愷忠君、瀬尾誠君、田中健志君、児玉裕志君、鮫島茂君、藤田明信君、柴田脩司君、末岡徹照君、竹本盛男君、村上智亮君、山本靖雄君、金本善行君をそれぞれスマイルボックスにご案内いたします。

また高額商品券をゲットされた齊藤昭一君、垂井俊郎君、松岡輝明君、新原靖君、竹本盛男君、安部憲明君、鈴木義尚君、藤田明信君、池田巧君はシングルで、また中村哲朗君、鮫島茂君、梶川博君はダブルで、吉田愷忠君はトリプルでご出宝願います。私、木本弘三は金一封です。

☺ 全員

この1年が皆様に良い年でありますように、また西ロータリークラブの一層の発展を願って年頭の全員出宝をお願いいたします。

■ 卓 話

年男放談



渋谷 勝治 会員

渋谷でございます。皆さん、明けましておめでとうございます。

年男ということで、スピーチを仰せつかったわけですが、しかもその一番手ということで、いささか緊張しております。

干支(えと)の話をさせていただこうと、少し調べてまいりました。

古代中国で行われていた数を表す二つの方法、一から十を表す十干(じっかん)と、一から十二を表す十二支(じゅうにし)を組み合わせでできた暦法・暦が干支(かんし)、いわゆる「えと」です。

まず十干についてご説明します。

中国の殷の時代といえますから、いまから3千年以上前になります。十干は、当時から行われていた日にちを数える方法です。甲、乙(おつ)、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸の十を指します。一ヶ月を十日ずつの三つに分けて、それぞれの第一日目を「甲」、第二日目を「乙」と名付けたのが起りです。その後一から十を表す記号として用いられるようになりました。日本では、今でも甲、乙、丙、丁ぐらいまでは一般に使われています。

また、天体を観察するうちに不規則な運行をする木星、火星、土星、金星、水星の五つの惑星を発見し、災害がこの五つの星と関係があるのではないかと考え、五つの星の循環で一切の現象を説明しようとしたのが五行説です。

木(き)、火(ひ)、土(つち)、金(ごん)、水(みず)の五行が、それぞれ陽の気を表す「え(兄)」と、陰(いん)の気を表す「と(弟)」に二つに分けられました。木星を表す「木(き)」を陽の気を表す「きのえ」、陰(いん)の気を表す「きのと」に、というふうに全部で十になりました。

そして、これらを甲・乙・丙・丁の十干にあてはめて、甲が「きのえ」、乙が「きのと」、丙が「ひのえ」、丁が「ひのと」…というふうになりました。

つぎに、十二支についてご説明します。

十二支は、月を数える方法で、ご存知のとおり子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥の十二です。

これも同じ殷の時代に一年・十二ヶ月の名称として使われたのが起源です。十干と同様に一から十二までの記号として用いられるようになり、また、方位や時刻をあらわす呼称として用いられたり、年も表すようになりました。

漢の時代になると、十二支が動物の名称と結びついて十二支獣ができました。子は鼠、丑は牛…というように身近な動物があてられ、親しみやすくなりました。

干支は・十干と十二支の組み合わせで六十干支ともよばれ、一から六十までの事物の分類の記号として用いられますが、私たちになじみの深いのは年を表す方法としてのものです。

ご存知のように、還暦というのは、数え六十一歳のことで、十干と十二支の組み合わせによって六十一年目に元の干支に戻ることからきています。

「丙午(ひのえうま)」には、この年には災害が多いといわれ、この年に生まれた女性は夫を食い殺すという大変失礼な言伝えもあります。

また、夏の高校野球が行われる甲子園球場は、1924年、大正13年に建設されました。この年が甲子(きのえね)の年にあたることから甲子園と命名されました。

今年は辛卯(かのとう)。十干の8番目の「かのと」の卯(う)の年という意味です。60年周期ですので、時代をさかのぼって60年前、120年前の辛卯(かのとう)はどのような年だったか見てみました。

60年前は昭和26年、西暦1951年です。

この年は、第二次吉田茂内閣のもとで、9月に対日平和条約と日米安全保障条約が調印されています。また、第1回NHK紅白歌合戦が行われ、ボストンマラソンでは田中茂樹さんが日本人として初優勝しました。

日本全体が必死で戦後復興に取り組んでいたときです。「もはや戦後ではない」といわれたのが昭和30年ですから、その道はまだ半ばですが、前途に明るさが見えてきた…そういった時代でした。

更にさかのぼって、120年前は明治24年、西暦1891年です。

山県有朋内閣と松方正義内閣の時代です。この年、東京手形交換所が開業し、上野・青森間の鉄道が全線開通しました。また、来日中のロシア皇太子が巡査に襲われるという「大津事件」が起きたのもこの年です。

司馬遼太郎さんの小説・「坂の上の雲」がテレビドラマ化されていますが、司馬さんの表現を借りれば、開花期の日本人が坂の上の白い雲のみを見つめて歩き続けていた時代です。

こうして見ると、60年前は、敗戦で焦土となった日本を何とか復興しようと懸命だった時期。120年前は開国によって欧米列強の帝国主義に飲み込まれそうになりながら、独立国として生き残ろうと苦闘してきた時期です。いずれも日本人に貧困や苦しさ、危機感はありませんでしたが、絶望感はないように思います。

日本の現状はどうでしょうか。ある意味では、今述べた2つの時代に劣らず危機的な状況といえます。ただ、決定的に異なるのは、日本中に無力感、将来に対する不安や絶望感が満ちているということです。いわば、坂の上に仰ぎ見るような白雲(はくうん)が見当たらないということでしょうか。将来に対する希望や目標があるとき、日本人は強いのです。

私は昭和2年のウサギ年、12月17日の生まれです。昭和元年は7日しかありませんでしたから、昭和のほとんど、平成の全てを生きてきたわけですね。今年85歳となりますから、そう先のことまで無責任に言うことはできませんが、日本人の性格や能力をすれば、必ずこの困難に打ち勝つことができると思います。

今年がそのターニングポイントとなること、併せて皆様のますますのご健勝とご繁栄を祈念いたしまして、私のスピーチを終わらせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。 以上



梶川 博 会員

皆さん、あけましておめでとうございます。私は1939年、昭和14年兎歳1月生まれで、今年7回目の年男です。兎と

いうのは、干支の中でもあまり大物視されず、飛躍跳躍といえば聞こえはいいのですが、臆病で疑い深そうな印象ですね。

兎についてまず思い浮かぶのは、月のうさぎ、因幡の白ウサギ、亀に抜かれる兎とどれもあまり重みがなく、影響力もなく、リーダーシップも協調性もない、孤独な草食動物といった、マイナスイメージですね。私も年男にでもならないと、自分が兎歳生まれだと意識することはありませんが、この4月に5人目の孫が生まれる予定で、その子が兎歳と認識して、急に「そうか兎か、ワシと一緒にだ」と嬉しくなり、兎年を久しぶりにプラス意識しました。

私は1月生まれなので、実際に母親の胎内にてこの世に存在していたのはそれより約9ヶ月前であり、本当は寅であって、それも兎の皮を被った寅だという考え方もあるそうです。今でも時々暴れてやりたいという気になるのはそのせいかとも思うのですが、我が家に本物の寅(歳)がいて、下手をするとかみ殺されそうなので、猫ならぬ兎を被っておとなしくしています。

<今年の抱負>

仕事：少し後ろから、広い視野に立って次世代をサポート。

読書：古今の名著といわれる書物のエッセンスにふれたい。あまり時間もないので、イージーにダイジェストでもいいかな、と思っています。漫画もいいですね。

趣味：1) ゴルフ：80才までにはエージシューターを目指したい。今といわれると、無理に決まっています。2) 囲碁：プロに一勝したい。3) 絵：全身のバランスのよい人物像を描きたい。目下は手足がどうしても小さくなり、カピバラ像といわれています。4) 歌：大好きな演歌を極め、CD録音を果たし、演歌の星屑を目指す。5) 旅行：イタリアやドイツをゆっくり旅してみたい(これは家内が無理矢理に追加しました)。

昏迷の世相ですが、跳ねる力で障壁を越えて、明るくなるよう会員の皆さま御一人御一人が頑張ってください。



教 蓮 幸 生 会 員

皆さん明けましておめでとうございます。
 5回目の年男を迎えました教蓮です。

満60歳になりました。還暦です。何か実感がありません。皆さんもご存知のようにお酒をよく飲みますが量的には若い時と変わりありませんが回復がかなり落ちたと最近感じます。

若いころには、毎年、県内外に店舗を出店するなどいろいろな事業展開をしていましたが、ここ何年かは、世の中の不景気もありますが、公的な機関との契約が増えてきました。2月3月には、官公庁の入札がピークになります。

最近よく友人や取引先から後継者の事をよく聞かれます。子供は息子2人、娘1人の3人おりますが、それぞれ別の道に進んで頑張っています。

正月に子供達といっぱい飲んでしていると長男がふっと「お父さんあまり仕事を広げんさんなよ。誰も後をやるもんはおらんよ」初めてそんな事を言いました。「誰もお前たちをあてにしていないから心配するな」と話しました。私は世襲ということにこだわらず誰がトップでも成長出来る企業を夢みて今、着々と準備を進めています。

この年末には、約8000個のおせち料理を作りましたが、今の工場では手狭で限界のように感じ、工場の拡張を考えないといけないと思いました。

正月に久しぶり家族13人が集まりました。3人の孫がいますが一番上の孫が私に「じいじ、じいじ」と呼ぶのですがピンときませんでした。あ・そうか私も60歳なのか！いつまでも若い若いと思っていましたが、普段妻と愛犬2匹の生活なので大変でした。やっと普段の生活に戻りました。

以上で年男のスピーチを終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



青春60！ 瀬 尾 誠 会 員

皆様あけましておめでとうございます。本年もよろしく
 お願い申し上げます。

兎年、早々の還暦卓話を気分よくお話しさせていただきます。

さて、「一年の計は元旦にあり」弊社では恒例

行事として仕事初めに全社員（100名）書き初めを行います。後日、ファイルし全部署に回覧し、自分の想いを伝えております。

私の書き初めは「志を高く元気で笑顔で青春60！」と書きました。

去年はプレ還暦の年として位置づけ、体力と精神力のレベルアップを図りました。

春先から我が町の山野をウォーキング開始し5キロ、10キロ、20キロと徐々に距離を伸ばし、3つのイベントを計画し実行しました。7月は、とびしま海道（安芸川尻から4つの橋を渡り御手洗まで歩き⇒船⇒川尻⇒自宅）約40キロ、所要時間10時間でした。

8月は、自宅から黒瀬、熊野、海田経由広島駅まで約45キロ、所要時間10時間30分でした。そして、最大イベントの11月は、呉三山せとうち縦走コースとして、安浦から野呂山登頂（840m）広二級峡下山し、江の藤（664m）経由、灰が峰登頂（740m）下山、最後に休山（540m）登頂、下山し音戸の瀬戸までの行程、朝5時50分スタートして夜7時半までひたすら歩き、所要時間は13時間40分でした。万歩計は53,000を示していました。

同い年のソフトテニス仲間と二人で歩き。灰が峰下山途中、私の右足に痛みがきて歩行中止しようと思いましたが、しっかりテーピングしてそこは精神力で目標達成しました。

音戸大橋に到着した瞬間はうれし涙がでました。また、二人だから達成できたことに感謝しております。持つべきものは、やはりパートナーです。

今年は、体力と精神力さらに知力のレベルアップを図りたいと願っております。

具体的にはもう一度、大学で学んでみたい希望を持っております。

アメリカの詩人 サムエル・ウルマンは「青春とは人生の一時期ではない。青春とは心のあり方である。志の高さであり、思いの質であり、生き生きとした感情であり、人は年を重ねるだけでは老いはしない、ただ理想を失うことによって老いるのである」といつている。

これからも、自分流のやり方でワークライフ・バランスをとりながら、青春60！を大いに楽しみたいと思っております。以上

● 卓話予告

日 時	テ ー マ
1/20(木)	「ロータリー情報委員会強調プログラム」 ロータリー情報委員会 大本和則委員長